

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	14-055	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and mortality: a dose-response analysis in terms of time. 飲酒量と死亡率：量-反応関係の時間分析		
<b>執筆者</b>		
Bellavia A, Bottai M, Wolk A, Orsini N		
<b>掲載誌</b>		
Ann Epidemiol. 2014 Apr;24(4):291-6. doi: 10.1016/j.annepidem.2013.12.012.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒量、生存時間、コホート研究、スウェーデン		24486142
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 少量から中等量の飲酒は死亡率の減少と関連している。しかし、この関連について様々な面で議論が続いている。本研究の目的は、飲酒と生存時間の関連について量-反応分析を行い、これらの議論に資することである。</p> <p><b>方法：</b> スウェーデンの中高年の男女 67,706 名の地域住民コホートを用い、自記式アンケートから飲酒の頻度と量を評価した。</p> <p><b>結果：</b> 15 年の追跡期間に 13,323 名が死亡した。飲酒量別の生存時間（10%が死亡するまでの時間）の差の評価には Laplace regression を用いた。飲酒量と生存時間の関係は直線的ではなかった。女性では、飲まない群に比べて 6g/日の群で最も生存時間が長く、その時間差は 17 か月(95%CI 10-24)であった。飲酒量がこの量を超えると次第に生存時間は短くなった。男性では、飲まない群に比べて 15g/日まで生存時間は延長し、その時間差は 15 か月(95%CI 8-22)であった。</p> <p><b>結論：</b> 少量の飲酒は生存時間の延長と関連しており、その時間は女性では 1 日 0.5 杯で 1.5 年、男性では 1 日 1.5 杯で 1.3 年であった。</p>		